



協働のポイント—日本における現場目線とアメリカにおける理論から—

関西学院大学法学部 教授 小川 大和

今回は、「協働」に関する最近出版された全くタイプの異なる書籍を2冊ご紹介させていただきます。協働の本は、理論・実践ともにたくさんありますが、そのどれにも当てはまらない新しい視点からの書籍だと思います。1冊は日本における自治体担当者の現場目線でのポイントを紹介する実践に関する本、もう1冊はアメリカにおける協働の理論からポイントを紹介する本になります。

1冊目は、『自治体職員のための市民参加の進め方』（安部浩成／著、学陽書房、2,530円）です。著者は、千葉市役所の現役職員です。本著は、ご自身のこれまでの（成功・失敗）経験にもとづく、市民参加の現場で使える



『自治体職員のための市民参加の進め方』
安部浩成／著 学陽書房

るノウハウ集という表現が一番適しているように思います。担当者の心構えやスキル、進行のポイント、手法とその特徴、市民との関係づくりのポイント、効果など、全6章から成っています。驚くべきは、シンポジウム後のアンケートの設計について6ページを割いて詳細に記載されているなど、実務の一つ一つの細部に至るまで心配りをした内容になっていることです。現在では、どの部署（どの政策分野）でも、協働や市民参加が行われることが一般的です。研究者としての視座ではなく、実践者としての視座でもなく、職員視点での書籍であり、地方自治体の職員の皆様にとってとても馴染みやすく、とても参考になるのではないかと思います。

2冊目は、本年3月に上梓させていただき

ました拙著『アメリカの協働ガバナンス—既往研究の質的統合と理論的枠組みの発展—』（小川大和／著、関西学院大学出版会、5,390円）のご紹介をさせていただきます。本著がこれまでと異なる点は、日本ではなく、アメリカの協働ガバナンスに関する研究結果を示すものであることです。アメリカ

の協働については、先進的な研究が数多く展開されているにもかかわらず、日本ではほとんど知られていないため、それをお伝えする内容とさせていただきました。具体的には、アメリカの協働モデルをベースとしつつ、最新の研究結果をもとに新しいモデルを構築することを試んでいます。協働をご担当する実務者の皆様においては、当該モデルが示す各ステップに沿って協働を進めていただくことで、協働を成功に導くことができる、というものになります。例えば、アクター間で信頼関係や相互理解を構築するにはどうすべきか、対等な関係性を構築するにはどうすべきか、アクターのコミットメントを涵養するにはどうすべきか、協働が対外的な正統性を獲得するためにはどうすべきか、協働のリーダーシップはどうあるべきかなどについて、科学的な検証結果に基づく具体的手法を示しています。協働において重要なアクターである行政と市民セクターは、行動理念等が異なるため、なかなか理解し合えないこともあるかと思いますが、それを結びつけるバックボーンとなる理論をご提供できるのではないかと思います。至らない点が多々あるかと思いますが、よろしければ、ぜひご一読いただけますと大変幸いです。



『アメリカの協働ガバナンス—既往研究の質的統合と理論的枠組みの発展—』小川大和／著 関西学院大学出版会